

地中海 エーゲ海クルーズ17・2010 (11)

■マルタ島 ラ・ヴァレッタ入港【第11日目】 (平成22年) 2010.3月2日

□□ヴァレッタ城塞都市を訪ねる□

□am 6:00 に起床するが、昨夜のフォーマルナイトで夜更かししたせいか、少し疲れが残っている感じがする朝であった。でも今日は、次の寄港地□ラ・ヴァレッタ□への入港が 14:00 となっていることと、したがって寄港地観光も午後に予定されている□



なので午前中は、船内でのんびりできる。....まだ人影が少ない早朝の、14階デッキ・プールサイドで、朝の新鮮な空気と大海原の眺めを暫く楽しんだ。(上の写真)



□
そうこうしていると、船尾方向に真っ赤な太陽が昇ってきた。何とも言えない美しい光景。....次の瞬間、カメラを携帯していないことに気づく。ああ～ア
....反省しきり.....

□

□朝食のレストランを「ラ・レヅジャ」と決めて入る。案内されたテーブルには、私たちとは別のグループの日本人のご夫妻と相席することとなった。このご夫婦の年齢は、ご主人が72歳 奥さまは私たちと同一年の67歳。すでに世界は20ヶ国ほどを訪れた経験をお持ちのご夫婦で、「トルコ」はお薦めだとおっしゃった□

□

メニューを見ると「目玉焼き」と「スモークサーモン」に「ニシンのマリネ」がある。

反射的に「Soy Sauce Please!」とボーイに頼む。暫くすると運ばれて来た....まぎれもなく日本の味の「醤油」である。これをかけて口の中に....懐かしい「日本の味」が、口いっぱいひろがり、大満足の朝食となった。.....が、レストランを出て....ここはイタリア「郷にいれば郷に従え」....反省もしたものだ□



□

船首側の室内プールサイドに「スポーツショップ」があった。店内を何気なく見ている内に、真っ赤なウインドブレーカーが目にとまった。

これには、この船の持ち主の会社であるロゴ□MSC□がデザインされていて、記念にもなるしお洒落である□

孫に良いかな?...と私は思っていた。ところが、寄港地観光で着るのにはちょうど良いと、家内が買い求めた。....あれッ???....まあいいか....。 航海中は船内のどこのお店も免税となるのが嬉しい□



am 11:30からdeck7のアフトラウンジで、「下船の為の説明会」があるというので聞きに行く。その後、レストラン「ラ・レジャー」でパスタの昼食とした。

スブレンディダ号は、14:00 マルタ島の「ラ・ヴァレッタ港」に入港して行く。入港時の景色が素晴らしいというので、最上階のデッキ15に上がる。多くの乗客たちが集まり始めていた。今日は入港後、ここマルタ島の観光が予定されている。



マルタ島の城塞都市がくっきりと近づいてくる。この街の色（建造物は、**蜂蜜色でマルタストーンと呼ばれている**素材で出来ている）が何とも時代を物語っているかのようだ。そう言えば、この街には、紀元前5,200年から既に、人が住みついていた



たという

から驚きである□

□

□地中海に浮かぶ歴史と景勝の国 **マルタ共和国**が今日の訪問国である□

□地中海のほぼ中央に浮かぶマルタ島□淡路島の約半分ほどの小さな島であるが、古代遺跡が多数あるという。中世の栄光を今に伝える壮大な城塞都市である□

日本との時差8hr...□地中海のヘソ」と言われているマルタ島。この島に年間120万人もの観光客が押し寄せるそうである。その内の1万人が日本人だそうだ。...多いか？少ないか？

デッキから眺めるこの蜂蜜色「マルタストーン」の街並みは素晴らしい□

細かい訳は分からず終いだが、この街に住んでいる人たちは、「**世界で一番幸せ度の高い国**」に住んでいる言われている。





□pm 1:15頃だったか、下船をする。数千人の乗客たちが一同に下船するので、下船口であるギャングウェイは大渋滞であった□

岸壁には、空からの観光を案内する水上飛行機が係留されていた。今日の城塞都市の現地ガイドは、日本人女性である。こちらの人と結婚をして、マルタに14年住んでいるとのこと。

この現地ガイドと観光バスのドライバーの特別なはからいで、城壁内の街に入る前に、城壁の外側をぐるっと一周しながら、車窓からの観光が始まった。

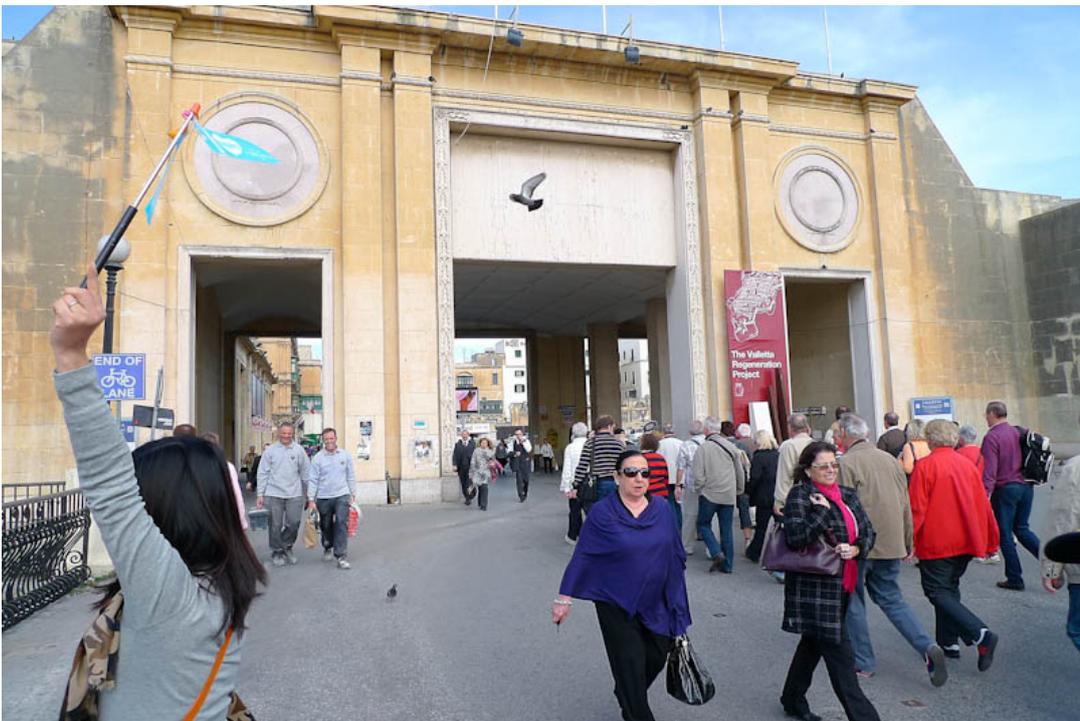
その時の車窓からの写真が、下の4枚だ。



□下の写真が城

壁の門で、これをくぐってラ・ヴァレッタの城壁内の旧市街地に入る□

街のどこを観ても、蜂蜜色の石「マルタストーン」を利用した建物と、地中海の深い青のコンビネーションに心を奪われる感じである。



シティー・ゲートに入って、真っ直ぐの通りが「パブリック通り」であった。私たちはその通りから右に入って「聖母ヴィクトリア教会」の側を通り、元騎士団の宿舎の前に出た。現在は、首相官邸（入口に大砲）となっており見学は出来ない。





ここは「**アッパーバラッカ・ガーデン**」で

ある。ここからは、私たちの船が入港してきた港が一望に見渡せる。別名を「**イタリアの見晴台**」と言うそうだ。

□蒼い海 空 そして蜂蜜色の建造物群...まるで絵画のような素晴らしい景色である□

ここヴァレッタは、マルタ本島の北側にあるマルタ共和国の首都である□

首都でありながら、人口が僅か14,000人程度だそうで、全人口の10分の1にも満たないと言うから不思議である。

どうも周辺の街から通勤している人が多いということらしい。



□ヴァレッタは、オスマン帝国を打ち破った「**聖ヨハネ騎士団**」によって造られた街だ。

その「**マルタ騎士団総長の宮殿**」に案内された。この街は、世界で最初の計画都市といわれており、ユネスコの世界遺産にも指定されている。

□繁栄の名残を感じる立派な宮殿の中には、騎士団員が身につけた甲冑や槍 さらに大砲などが沢山展示されている。重要な会議や、催しが開かれた部屋などを見学できた。



☐☐**聖ヨハネ大聖堂**」（写真右下）

聖ヨハネ大聖堂の内部は、バロック・スタイルの装飾が施され、金箔や大理石 彫刻など

騎士団の富を象徴する豪華な造りとなっていた。

□

この大聖堂の正面広場に面して、カフェテラスがあった。お茶でも飲んでひと休みしようと「エスプレッソ」を注文する。

とても飲みやすく美味しい。旅先での、こうした少しの時間もまた楽しいものだ。



□どの建物も「マルタストーン」と言う蜂蜜色をした石材から出来ている□

この石は、比較的柔らかいため採掘が容易であるそうだ。しかも、経年変化で強くなってゆくと言う性質を持っているために、理想的な建材なのである。さらに現在も、マルタ全域から採掘することが出来るというから凄い。



□

八百屋の店先を通ると、バカでかい「かぼちゃ」に目が止まる。何気なくカメラを向けて撮影すると、店の奥から店主らしきおじさんが、大声を上げながら出てくる。

....む???...勝手に撮影をしたことに腹を立てているのかと一瞬思った。すると、そのおじさんが紙袋を持ってきて、その「かぼちゃの種」を入れ始めた。そして、私にあげると差し出す。日本に種を持ち帰って育てなさい...という訳である。

明るく陽気なマルタの人だったのである。

あ～あ...怒られずに済んでよかった。





ラ・バレッタの港には、なんともお洒落な店が並んでいる。蒼や赤のドア。センスの良いデザインの家号が目を引く。



今日は午後からの観光で、短い時間ではあったが、何だか充実していたように思えた。



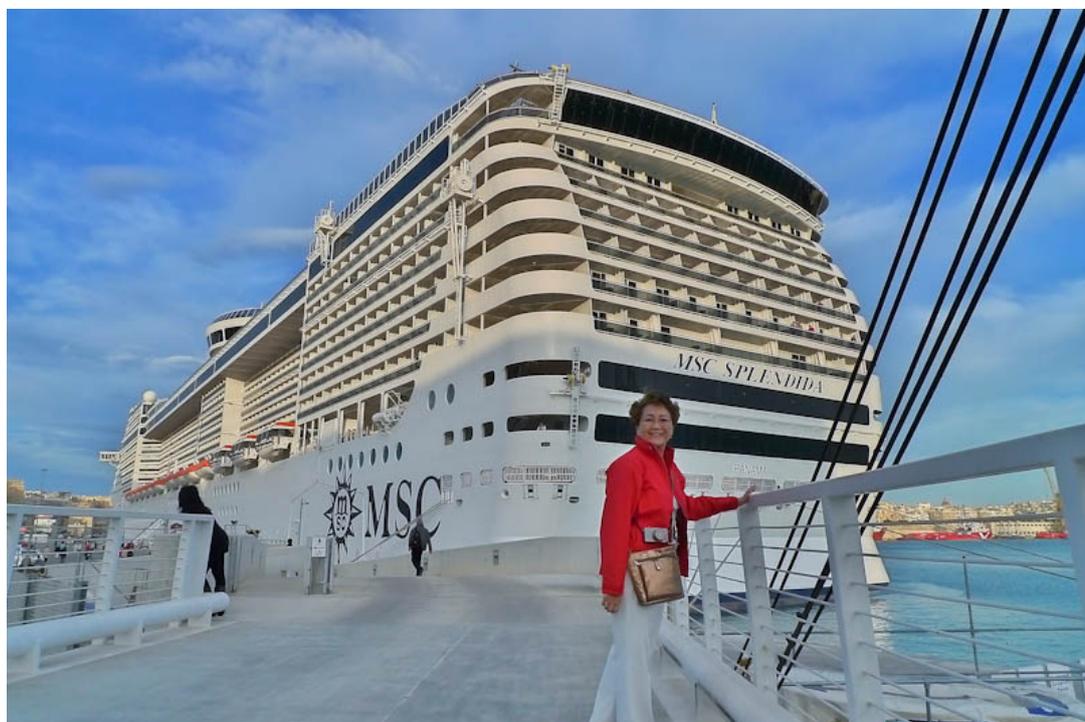
数多くの民族の侵略を受け、果敢に戦った聖ヨハネ騎士団の活躍など、数々の異文化が調和した国...見どころたくさん...見応えありでした。

□

城壁内の旧市街地の観光を終えて、ラ・ヴァレッタの港に戻った。この海岸沿い

には、なんともお洒落な店が並んでいる。 レストランの入口の脇に、建物にはめ込まれた黒板がある。それに、チョークで、お薦めのディナーのメニューが、さりげなく書かれているのも、とてもお洒落に見える□

ヨーロッパには、日本のように「呼び込み用の幟や旗□は一切見かけない□なので、街並みがすっきりしていて、素晴らしい。そうした雰囲気を楽しみながら、ゆっくり歩いて船にもどった。





夕食をメインのレストランの「ヴィラヴェルデ」でとったあと、ザ・ストランドシアターで「Anna お送りするスプレッディダ・スターズバラエティー」というショーが pm 9:00 から公演となった。

□

□このステージで、サラブライトマンのデュエット曲が披露される□

□サラブライトマンは、イギリスのソプラノ歌手であり女優で.....世界で一番美しい歌声と言われている□

私たちも大好きな歌手のひとりで、聞き慣れた美しい癒しの曲を聴いて、今日も楽しく終わった□

船は、pm 7:00 に岸壁を離れ、明日入港予定のメッシーナに向けて航行している。